

# 自然環境に対する人為的行為

石 沢 進

豊かな自然を売り物にした地域開発が各地で進められている。人が多く集まるところは、美しく、見栄えのする花壇を作ったり、立地の改変が行われたりして、様々なこと進められている。その他自然環境を損なう次のような行為が行われ、気掛かりなことである。

○自生地への植物の移植・播種

護摩堂山のアジサイの移植、弥彦山のアジサイの移植  
五十公野のアヤメ園、各地の野生植物の移植など

○自生植物の盗掘

販売目的による野生植物の大量採取

○土地の改変

主に公的機関による道路・ダムなど野生集団の消失

○農薬・除草剤の散布

水田・道路脇など至るところに散布

気掛かりな行為のいくつかの事例を以下に示しておくたい。

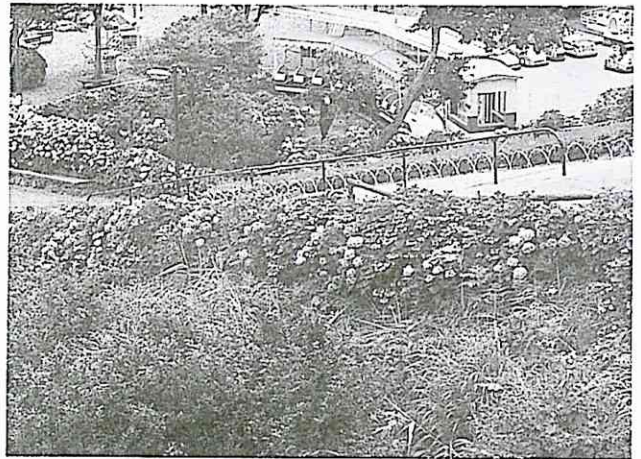
●弥彦山のアジサイの移植

弥彦山のロープウェイ山頂駅から山頂までの沿道にアジサイが植栽されて、ほぼ全体に及ぶほどになっている(写真)。この沿道は野生の植物が観察できて季節ごとの植物を楽しむ最高の場所であるのに、アジサイの植栽によって可憐に咲く、小さい植物の姿が消失して残念でならない。

多様な植物の生育している所をアジサイの植栽で無味乾燥な所に改変している。このような行為が弥彦山の特色を消失していることに気づいてほしいと思っている。

植物の自生地にアジサイ、ツツジ、アヤメなど一時的に花を咲かせる植物を豊かな自然植生の中に移植して人の目を楽しませたいという行為について再考して頂きたい。身の回り自然に目を向けて、そこで営まれている植物たちの動きをじっと見つめると、様々な感動と楽しみが生まれるはずである。

参考：新潟日報 なんでも通信「必要な？ 自然の中の遊園地」1995年12月12日掲載



ロープウェイ山頂駅付近植えられたアジサイ 1997 7 29

## 新 潟 日 報

(夕刊)

1995年(平成7年)12月12日(火曜日)

(4)

行きたがりました。すかさず母が言いました。「ため。あなたのデパートにもあるでしょ」。この言葉を聞いてはっとしました。

よく考えてみたら母の言うとおりに思えてきました。確かに山に多少設備をととのえることは大事だと思えますが、自然に関心がいかないよつではだめだと

### なんでも 通信

この前家族で、やひこ山 行きます。私たち未来人に行って来ました。ロープウェイで上ると、山頂には遊園地のような所がありました。ゲームセンターのようなものもあり、見るからに設備がととのっていて楽しくなりそうな感じがして行きたくなりました。弟も

自然の関心を消すようなことをしていると思いません。遊園地のところは子供がたたくさんたのに、景色などを見ている子供は少なくてがっかりしました。

(新潟市千11 小学生)

### 必要なの？ 自然の中の遊園地

### ●絶滅危惧種バシクルモン生育地のゴミの山

海岸に打ち寄せられるゴミの山は、県内全域の海岸の至るところで見られる。バシクルモンの生育地も例外ではない。生育地を直撃する人的行為ではないが、ゴミの投棄が間接的に野生集団に影響を与えている事例であろう。現状ではゴミの山の中でもバシクルモンが生育しているので、安心しているもの何かしらの対策が必要に思っている。



ゴミの堆積の中に生育するバシクルモン 2004 11 23 撮影

### ●林道・ダム建設による植生の破壊

昔は人の歩く道が、山々の各所に作られ、少し古い5万分の1地形図をみても示されているが、その地図の道をたよりに山に登ることができなくなっていることが多い。その道は人が利用しないので、放置されて荒れ果てている。その代わりに大きな林道が作られて縦横無尽に走っているところもある。小佐渡の山中などには「至る所に道あり」の感じであり、本土側でも、どのような目的で建設されたか、理解に苦しむ林道を各所でみかける。林道による植生の破壊は大きく、道路の両脇だけではなく、その建設により各地で土砂の流失を伴い、場合によっては土砂災害の引き金になっているようである。

ダムによる植生の破壊は、本誌でも何度かとりあげている。奥胎内のブナ林を守るためには、水を溜めないダムならば助かる。まだ、ダムの本体工事には着工していないようであり、洪水防止のためだけなら、水を溜めないダムに切り替えて、ブナーユキツバキの樹林を温存させてほしい、と願っている。

### ●出雲崎町指定文化財天然記念物シノキ（宇奈具志神社の大椎）の保存

シノキの脇に神社があり、その枝が神社の屋根に覆いかぶさり、神社の屋根の銅版の腐蝕を進行させているので、シノキの枝を切り落としたい、と住民からの要望がでている。このような場合、どのような判断をしたらよいか、戸惑う。お金を節約するという経済的な側面からはシノキの枝下ろしも止むを得ないとも思うが、何百年も生きてきたシノキを大切にしたい、と植物に係わりを持っている私としては、樹の保護を優先させたいと思って枝下ろしをしないようお願いしている。生き物に遠慮して大切に、共存するヒトの生き方ができればと念じている。

1989年(平成元年)3月31日 (金曜日)

## 新 潟 日 報

### 環境を考えた 林道の建設を

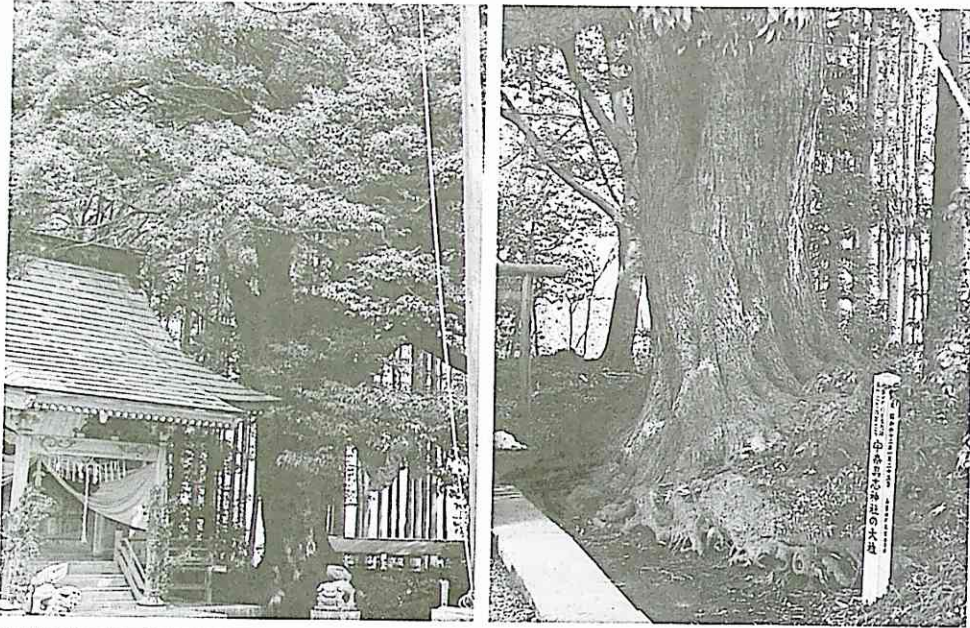
渡辺 庚二 農 業  
(佐渡畑野町)

雪割草を保護するために、官民一体の取り組みが進められていますが、保護の実を上げるためには、見落とされていくものがあると思います。昨年、近くの山に約九百畝

の林道が建設されました。そこは雪割草の群生地で、工事前に調べたところ、一平方畝当たり十二、三本から五十本

くらいの密度で植生がありました。林道のために削られた面積は、約一万二千平方畝です。一平方畝十本としても、十二万本が失われたことになります。また、環境の変化に極めて敏感な植物ですから、植林によっても絶滅します。ちなみに、昭和六十二年度の植林面積は全島で約百九十畝。林道の建設は約二十\*畝で、用地面積は三十畝と推計されます。植林はほとんどが新植ですから、この二百二十畝には、雪割草が散在していると考えられます。仮に平方畝当たり一本としても二百二十万本となります。開発によって毎年膨大な量が失われていることが見失われているのです。

雪割草保護のためには、採取の禁止を呼び掛けるだけでなく、開発予定地内のものを移植することも考えなければ実効が伴いません。関係者の理解と速やかな対応を、山草会会員の一人として願うものです。



出雲崎町指定文化財天然記念物シイノキ 2005 2 22 撮影

●その他、身近な自然に関心を持ち、考慮してほしい項目には、次のようなものがあり、ヒトが行為を加える際に慎重であってほしい。

- 里山の適正な管理
- 自然林の保護 自然の推移に委ねる地域の確保、各地域の見本林
- 生態系の温存

会員の方々にお願い

本誌でこれまでも関連する内容を掲載しているが、会員の方々の身のまわりで行われている自然環境の破壊に関する行為の事例紹介をお願いしたい。

#### 新潟県自然保護団体の会報

「山のともだち通信」(毎月定期講演会・観察会を精力的に開催しています。)

新潟県生物教育研究会誌 No. 40 (2005年3月発行)

新潟県生態研究会誌 第6号 (2004年3月発行)

ろうたす 30 (2005年3月)

四季のつどい 31 (2005年3月発行)

じねんじょ No. 25 (2004年12月発行)

しぶきつほ 26号 (2005年3月)

蛍とともに(新潟県ホタルの会会報) No. 15 (2005年3月)

ニューズレター 第24号 (2004年11月)

新発田の水と緑 No. 26 (2000年12月)

かたくりの詩 第12号 (2003年12月)

かたっこ 第53号 (2004年2月)

加茂生物同好会会報 No. 11 (2004年1月)

いじみの植物の会会報 第2号 (2005年 月)

山のともだち

新潟県生物教育研究会

新潟県生態研究会

上越植物友の会

東蒲自然同好会

植物同好じねんじょ会

にいがた貝友会

新潟県ホタルの会

にいがた森林の仲間会

しばたの水と緑を守る会

弥彦山脈植物友の会

小国生物友の会

加茂生物同好会

いじみの植物の会

#### 植物保護に関連して会報など発刊している団体

植物同好じねんじょ会 事務局 〒947-0003 小千谷市山寺 関 省吾方

新潟県生物教育研究会 事務局 〒950-1141 新潟市鐘木185-1 東京学館新潟高等学校生物教室内

新潟県生態研究会 事務局 〒942-0082 上越市国府1丁目13-9 古澤和子方